

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立小中一貫校北山校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領が小学校で実施され、学力の3要素を資質能力ベースで育成する指導がスタートした。令和3年度は中学校も実施となり、小中一貫校として、児童生徒にどんな力をつけるのか明らかになりながら、具体的方策を共通理解し、指導改善していく。主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、校内研究も充実させたい。 ・地域のよさを生かした学習や交流活動を通して、ふるさとへの愛や誇りを持つ児童生徒を育成する。また、そのことをキャリア教育へもつなげていく。 ・コロナ禍に限らず、思いやりを持ち、人との絆を大切にすることの育成については、引き続き指導強化していく。
------------------	---

2 学校教育目標	「感謝・絆・全力」を合言葉に、小中一貫教育と各種交流活動によって、自主・自立に向かう児童生徒の育成をめざす。
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①「感謝」— 豊かな心【キーワード： 自他の生命尊重 他人を思いやる心 自己肯定感 キャリア教育】</p> <p>②「絆」— 絆づくり【キーワード： 人間関係力の向上 ふるさとへの愛、誇り 地域連携 小中一貫教育】</p> <p>③「全力」— 学力向上【キーワード： 基礎・基本(学習・生活習慣)定着 思考力・判断力・表現力向上 体力向上】</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者 ※左端が主担当
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による学力向上対策の共通理解と共通実践を行う。読書活動の活性化を図る。	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員を80%以上にする。	・「北山校授業モデル」(つかむー見通すー考えるー深めるーまとめる)を徹底し、児童生徒が見通しを持って進んで学習する授業を全校で取り組む。					・学力向上対策コーディネーター(堤、久原)
	○課題解決に向けて主体的に学ぶ児童生徒の育成を目指し、問題解決的な学習を取り入れた授業改善を行う。 ○GIGAスクールに対応するシステムを整え、学力向上を図る。	○全国調査「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか。」の質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒を小学部80%、中学部75%以上にする。 ○学校評価アンケートで「タブレットPCは、学力向上に有効である。」と回答する児童生徒を小中ともに90%以上にする。	・授業における単元計画や導入の工夫を行い、「思考の6項目」を取り入れ、児童生徒が主体的に学びに向かう授業づくりの研究を進める。小学部、中学部毎に学期に1回ずつ、計2回の全体授業研究を行い、論理的思考力を伸ばす研究を進める。 ・「eboard」を導入したり、タブレットを活用させたりすることで、児童生徒の主体的な学習を支援する環境を整備する。					・校内研究(牛島、坂井)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を行う。	○いじめ・いのちを考える日に、児童生徒会による「北山校みんな仲よし宣言」を実施し、豊かな心を醸成する。 ○全国調査「人が困っている時は進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の2項目で小中いずれも80%以上にする。	・ふれあい道徳として授業を公開することにより、家庭や地域の方々に学校の取り組みを知ってもらおうと共に、心の教育においても家庭、地域との連携を図る。 ・自他の命、他者への思いやり等については特に重点的に指導する。					・道徳教育推進教師(城、津上)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実を図る。	○全国調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、いじめに対して正しい理解をしている児童生徒を小学部97%、中学部95%以上にする。	・月に1回、いじめ・いのちを考える日として、集会を行う。 ・いじめアンケートを月に1回とり、また日常の細かな観察を併せ、早期発見、早期対応をしていく。					・生徒指導(岩橋、遠藤)
	○「あいさつ・返事」「正しい言葉遣い」ができる児童生徒の育成を行う。	○あいさつ、返事、言葉遣いについて全職員で指導し、全国調査「学校のきまりを守っていますか。」について肯定的な回答をした児童生徒を小中共に85%以上にする。	・「あいさつ、返事、言葉遣い」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導、部活動を通して徹底する。また、年間を通して全校集会の際に「あいさつ、返事、言葉遣い」についてふれ、意識の継続を促す。					・生徒指導(岩橋、遠藤)
	○「考え、議論する道徳」の実現を、道徳教育全体と道徳科の授業において図る。	○全国調査「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(いつ)と思いますか。」の項目で、肯定的な回答をした児童生徒を小学部80%、中学部75%以上にする。	・道徳教育全体計画の内容を全職員で把握するとともに、週1時間の道徳科の授業改善を図る。主体的・対話的な学びになるよう指導過程や発問の工夫を行う。					・志を高める教育(城、嶋田)
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成をめざす。	○学校評価アンケート「児童生徒が事故や事件に遭わないように安全指導を行った」について肯定的な回答をした教職員を90%以上にする。	・危機管理マニュアルの内容を6月までに全職員で確認する。日頃から事例等を示し、当事者意識を持たせる。 ・年3回の避難訓練の意義の理解を図り、児童生徒が自分で判断し、安全を確保できる行動がとれるようにする。					・安全(遠藤、一ノ瀬) ・教頭
	○自ら健康な体づくりをする児童生徒の育成を行う。	○学校評価アンケート「体育の時間や屋外の遊び(部活動)などで体力がつかましたか」について肯定的な回答をした児童生徒を80%以上にする。	・合同体育により、団体競技等を積極的に取り入れ、異学年で体力づくりを意識した交流を行う。					・保健体育(遠藤、岩橋)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減を行う。	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限45時間を守ることができた教職員を100%とする。 ●業務内容の平準化を図り、1～12月の間の年休取得を全員5日以上、平均12日以上にする。	・定時退勤日(水曜日)を設定(6時半には施設)、徹底する。 ・部活動終了後1時間以内に学校を施設する。 ・原則として課業日1日と週休日1日の部活動休業日を徹底させる。 ・時間のかかる仕事は全職員で取り組む等、職員同士声を掛け合い、ふれあいを大切にする。					・副校長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○地域との連携	○地域連携活動を推進する。 ○ふるさとへの愛や誇りを持ち、ふるさとを自慢できる児童生徒を育てる。地域と連携した活動「北山ふれあい企画」を充実させ互恵性のある行事にする。	○全国調査「今住んでいる地域行事に参加していますか。」の項目で肯定的な回答をする児童生徒を小学部70%、中学部60%以上にする。	・「北山ふれあいサマーキャンプ」「ふれあいの冬北山まつり」を、より実情にあったものに改善し、参加者全員が充実感を味わえる企画とする。					・ふれあい企画部(副校長、古賀し)
○小中一貫教育	○小中一貫教育を推進し、9年間を見通した教育課程を編成する。	○学校評価アンケート「小中一貫教育のよさを実感する」について肯定的な回答をした教職員の割合を90%以上にする。	・小中一貫教育のねらいやよさ(9年間の系統性と小中の連携)を明確にして活動に取り掛かり、振り返りまで行うようにする。					・教務主任(久原、堤)
◎志を高める教育	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むための教育活動を行う。児童生徒一人一人のよさを生かし、志を高めるよう支援する。	◎全国調査「将来の夢や目標を持っていますか。」について「当てはまる」と肯定的な回答をした児童を70%、生徒を60%以上にする。	・キャリアパスボードを活用し、各種体験活動では、児童生徒に自分の生き方・目標を見据えさせる。「活動の見直しと中間の振り返り、最終の学びの振り返りと活用」を特別活動中心に行う。					・ふれあい企画部(副校長、古賀し)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--